

国内の最新基準に準拠し、より使いやすくなった!

# BIM×負荷計算



建築設備設計基準ソフトウェア

# STABRO

STANDARD OF MEP ENGINEERING DESIGN

for  
**Revit**<sup>®</sup>  
Ver. 2.0

## “負荷計算の生産性向上”と “計算結果のBIM活用”にお応えします。

Autodesk Revit上の建物モデルから情報を自動で拾い出し、建築設備設計基準の負荷計算を行います。Revit APIを使用したダイレクト連携により、高い変換効率で効率的に情報の連携を行うことが可能です。



### 特長

#### ● 最新の国内基準に対応

最新の建築設備設計基準「平成30年版」に対応しました。また、Revit2018/2019/2020に対応しています。

#### ● 室、壁・床面積等の自動抽出

Revitの建物モデルから負荷計算に必要な情報を自動で抽出します。面積は壁芯で拾います。  
(項目) 方位別面積および種類(窓、外壁、内壁、屋根、天井・床)室面積・室諸元、空調系統情報

#### ● 窓、壁等の種類・グループ化設定

設計段階により建物モデルに壁の情報がきっちり設定されてなくても計算ができます。  
また、壁のグループ化機能により、壁の種類を減らした計算も可能です。

#### ● 計算結果をRevitで読み込み

各室の負荷値(SH,LH等)をRevitのスペース(室諸元)へ読み込ませることができます。  
Revitを中心とした負荷値の活用が可能です。

#### ● オンラインライセンス認証

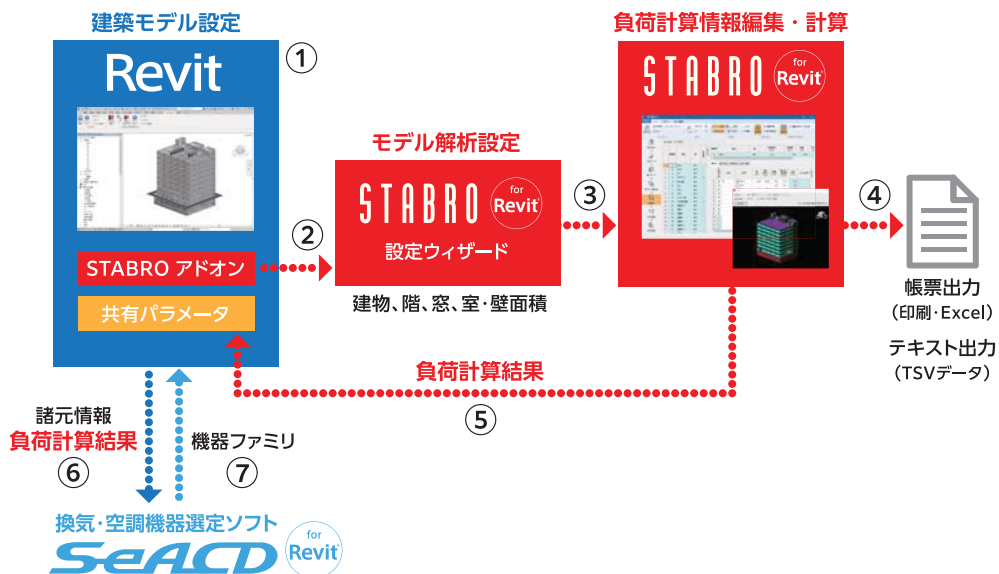
WEB上のライセンスサーバーで認証を行います。  
ライセンスの取得、解放もワンクリックで可能です。

## ■ ワークフロー、Revitとの連携イメージ

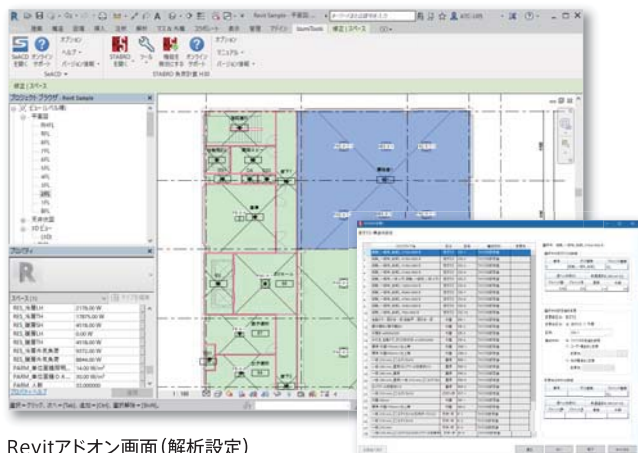
### ワークフロー

- ① 建築モデルの作成
- ② 建築モデルの解析
- ③ 熱負荷計算の実施
- ④ 熱負荷計算書出力
- ⑤ 負荷計算結果の反映
- ⑥ 諸元・熱負荷情報の読み込み
- ⑦ 空調機選定・ファミリの反映

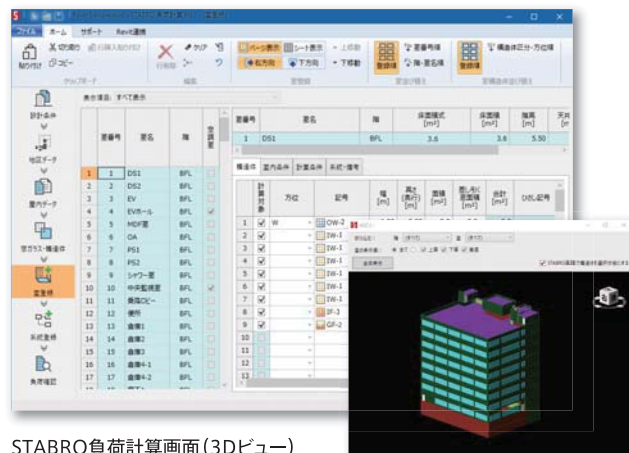
RevitからSTABRO連携アドオンを実行し、解析設定ウィザードを経由してからSTABROを起動します。計算結果をRevitの共有パラメータに戻し、機器選定等(SeACD for Revit)での活用が可能です。



## ■ 画面イメージ



Revitアドオン画面(解析設定)



STABRO負荷計算画面(3Dビュー)

## ■ 準拠している基準等

### ● 計算方法

一般社団法人公共建築協会編集・発行  
『建築設備設計基準 平成30年版』

※社団法人空気調和・衛生工学会『空気調和・衛生工学便覧』に記載されている構成材料データも追加で添付しています。

### ● 出力様式

一般社団法人公共建築協会編集・発行  
『建築設備設計基準 平成30年版』

※入力データチェック等に利用可能な独自の様式を追加しています。

## ■ 必要システム

### ● 対応Revit

Revit 2018 / 2019 / 2020

### ● ライセンス形態

オンラインライセンス方式  
※インターネットへの接続環境が必要

### ● 必要システム

OS : Windows 8.1 / 10 (64bitのみ)

CPU : お使いのOSが推奨する環境以上

必要ソフトウェア : Microsoft Excel 2010 / 2013 / 2016

